

【企画書】

講習会「雪崩サーチ&レスキュー講習会 AvSAR（アブサー）Basic 2019/2020」

【企画趣旨】

雪崩事故防止研究会は北海道大学山スキー部、山岳部、ワンダーフォーゲル部のOBによって1991年に設立されました。雪氷の研究者、スキーヤー、登山家、医師らが仲間に加わり、雪と雪崩の科学、降雪と気象、雪崩の医学、搜索救助法などの啓発・教育活動を北海道で続けてきました。2019年春から活動を本州へ拡げ、講演会「雪崩から身を守るために」、「雪崩サーチ&レスキュー講習会」を栃木、東京で開催しています。

活動を本州へ拡げる理由は、高校生ら8名が亡くなった那須雪崩事故（2017年）が起きたからです。事故調査に会員たちが関わりました。雪崩教育を受け、雪崩を回避する知識があれば、那須雪崩事故は防げたはずです。雪崩の搜索救助法と医学知識があれば、もっと助かる命があったかもしれません。私たちは、雪崩教育が不可欠だとの思いを新たにしました。

2007年11月、雪崩事故防止研究会代表阿部幹雄の提案により（公社）日本雪氷学会北海道支部は、「雪氷災害調査チーム」を設立しました。山岳地帯で起きた雪崩事故を調査するため、山岳ガイドや登山家がサポートして研究者を現場へ案内し、調査を実施。その結果を公表し、雪崩事故防止に役立つ社会貢献事業です。北海道警察と情報提供の覚書を交わし、雪崩事故発生、搜索救助の情報などの提供を受けています。また、北海道防災航空隊の協力を得て、エアレスキュー知識の啓発活動を行っています。

雪氷災害調査チームのメンバーは46名（2019年12月現在）。そのおよそ半数が雪崩事故防止研究会会員です。雪氷災害調査チームは調査研究機関、雪崩事故防止研究会は教育機関として位置づけ、雪崩事故防止のために車の両輪として機能させています。

雪氷災害調査チームの主催で2016年から2018年までの3冬シーズン、雪氷災害調査チームの安全性向上、教育者としての技術レベルの向上のためにスイスから国際的な雪崩レスキューの権威であるマニユエル・ゲンシュワイン氏を講師として招聘し、チームメンバー及び一般の参加者に講習を実施してきました。2018/2019冬から、主催を雪崩事故防止研究会に変更し、雪崩サーチ&レスキュー講習会」を北海道赤井川村で開催しています。



マニユエル・ゲンシュワイン氏

今年度は、4冬シーズンの講習会でインストラクター育成が進んだことから、チーム外へのアウトリーチとしての教育活動としての色合いを濃くし、雪崩事故防止研究会の主催としてプロ、アマチュアへの雪崩レスキュー技術を提供することを目的として講習会を開催することになりました。

すでに赤井川村（12月）で雪崩搜索救助（AvSAR：アブサー）講習会を開催。来年3月に群馬県・栃木県で開催する予定です。

講演会は、雪崩を回避する知識を学び、講習会は雪崩に遭遇した場合に命を救う方法を学ぶ場です。雪崩事故防止研究会が開催する雪崩サーチ&レスキュー講習会（AvSAR アブサー）は、MountainSafety.info（国際山岳安全情報機構、MSI：スイス）が提供する国際基準の「最良の実践を目指す雪崩レスキュー」の技術を日本で普及させる試みです。

雪崩事故防止研究会はこれらの活動を継続して行います。

【講習会の名称】 「雪崩サーチ&レスキュー講習会 Basic 2019/2020」

【主催】 雪崩事故防止研究会

【後援】 (予定) (公社) 日本雪氷学会雪崩分科会、(公社) 日本山岳会、  
(公社) 日本山岳ガイド協会、(公社) 東京都山岳連盟、株式会社山と溪谷社

【開催場所】 《群馬県みなかみ町》 2020年3月7日(土) 谷川岳ロープウェイ ベースプラザ  
〒379-1728 群馬県利根郡みなかみ町湯桧曾吹山国有林

<http://www.tanigawadake-rw.com/>

《栃木県那須町》 2020年3月8日(日) 休暇村那須  
〒325-0301 栃木県那須町湯本

<https://www.gkamura.or.jp/nasu/>

## 【目的】

- 国際的に標準化された MountainSafety.info (以下 MS.i) が提供する「最良の実践を目指す雪崩レスキュー」に準拠した技術を用い、一般向けの講習会として広く参加者を募り、講習をおこなう
- 国際基準の雪崩レスキューの技術を日本に普及させ、日本の雪崩レスキュー技術を国際基準のレベルに引き上げる
- エビデンスに基づく最良の実践を実現するための雪崩レスキュー技術を理論・実践の両面において受講生に提供する
- 雪崩事故現場にける危急なレスキューにおいて、迅速かつ効果的にレスキューの実践に不可欠な共通理解、共通技術の共有を実現する

## 【対象】

- 登山者、スキーヤー、スノーボーダーなど雪山愛好者
- 公的機関の救助隊員、ガイド、スキーパトロール
- 医師、看護師など医療従事者

## 【講習会の概要】

### 《主任講師》



榊原健一

北海道医療大学准教授。(公社) 日本雪氷学会雪崩分科会幹事、同学会北海道支部雪氷災害調査チーム。NPO 法人 北海道雪崩研究会理事、雪崩事故防止研究会、Avalanche Canada、カナダ雪崩協会各会員。MountainSafety.info 雪崩救助インストラクタ。共著に「山岳雪崩大全」、「雪崩教本」。

### 《講師》

阿部夕香 (札幌山岳ガイドセンター、北海道山岳ガイド協会理事、雪氷災害調査チーム)  
澤柿教伸 (法政大学准教授、雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム、北大山の会)  
榊原大貴 (雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム)

森山健吾（八方尾根スキーパトロール雪崩担当）

ほかマニエル・ゲンシュワイン認定 AvSAR インストラクター



阿部夕香



澤柿教伸



榊原大貴

《phot 未挿入》

森山健吾

《定員》 21名

《受講料》 ¥10,000

#### 《必要装備》

雪崩トランシーバー（デジタル3本アンテナ、マーク機能付き）、シャベル（金属製ブレード、伸縮型の柄）、プローブ（長さ2.4m以上）ほか

#### 【講習内容】

8:30~11:00 講義

- 雪崩トランシーバーの基礎
- 雪崩の死因：雪崩の危険、死因、生存率と生存時間、エアバッグ
- 雪崩サーチ&レスキューの基本：緊急事プラン、サーチの組み立て、グループチェック、エアポートアプローチ、速度・精度・解像度、メンタルマップ
- サーチスキル基礎：シグナルサーチ、コースサーチ、ファインサーチ、ピンポイントニング
- シャベリング基礎：成型シャベリング、ブロックカット、ハームムーンカット、ケーピング
- 複数埋没：逐次マーキングの方法、マーキングの問題、静的マイクロサーチストリップス

11:30~16:30 実技

- サーチトレーニング：雪崩トランシーバー装着法、グループチェック、シグナルサーチ、コースサーチ、ファインサーチ、マーキング、静的マイクロスプリット
- ピンポイントシャベリング、シャベリング
- シナリオトレーニング

16:30~17:00 総括

17:00 終了

【解説】 [MountainSafety.info](http://MountainSafety.info) (MS.i)

山岳レスキューの国際規格の勧告をする ICAR(国際山岳レスキュー委員会)においてさまざまな勧告の技術的裏付け、理論的検証を託され、IFMGA(国際山岳ガイド協会)、SLF(スイス国立雪・雪崩研究所)と連携し、UIAA(国際山岳連合)との協力のもとで行うスイスを拠点とする NGO。2016年に発足し、雪崩レスキューを最初の取り組み課題とし、ICARの勧告、UIAAの装備に関する国

際規格の発効に貢献している。MSiの雪崩レスキューの様々な技術は、23カ国語に翻訳されて提供されている。

<http://mountainsafety.info/>

**【問い合わせ先】**

雪崩事故防止研究会 事務局（石田淳一）  
〒064-0921 札幌市中央区南21条西8丁目  
TEL 011-521-0767 FAX 050-3737-4757（株）石田商店内）  
E-mail：[info@assh1991.net](mailto:info@assh1991.net)  
ホームページ <http://www.assh1991.net/>

**【参考図書】**

参考図書①「雪崩教本」雪崩事故防止研究会・雪氷災害調査チーム編（山と溪谷社、本体価格¥1,000）  
参考図書②「山岳雪崩大全」雪氷災害調査チーム編（山と溪谷社、本体価格¥1,980）



※ 雪氷災害調査チーム：（公社）日本雪氷学会北海道支部雪氷災害調査チーム